

# あなたの一步が命を救う 骨髓バンクドナーに登録を

近い将来、ドナー不足が深刻に。  
今、若い世代のドナーが  
求められています。

白血病などの血液疾患の有効な治療法のひとつとして、健康な人の骨髓や末梢血幹細胞を患者さんに移植する治療法があります。骨髓バンクは、患者さんと提供者を結び、移植を可能にするためのしくみ。骨髓や末梢血幹細胞を提供する人をドナーと呼び、患者さんはもちろん、ドナーも骨髓バンクにあらかじめ登録が必要です。

日本では毎年新たに約1万人が白血病などの重い血液の病気を発症しています。2月には競泳女子の池江選手が自身のツイッターで白血病と診断されたと公表しました。骨髓バンクを介して移植を必要とする患者さんは毎年2000人以上にのぼります。しかし、さまざまな理由から最終的にドナーが見つからない人も多く、実際に移植を受けることができる患者

さんは6割にとどまっているのが現状です。

ドナー登録者の高齢化も喫緊の問題です。現在、登録しているドナーの中で最も多いのは40歳代。骨髓バンクドナーの登録は18歳から54歳まで、提供は20歳から55歳までという年齢制限があるため、毎年約2万人がドナーを引退し登録から外れていきます。その一方で、若年層の登録者は減少傾向に。5年後、10年後、いま中核を占める中年世代が一斉にリタイアの時期を迎えたときには、深刻なドナー不足に陥ることが危惧されています。善意によって命をつなぐ骨髓バンクというしくみを将来も安定的に維持し、一人でも多くの命を救うために、今、若い世代のドナー登録者が求められています。



# 骨髄バンクとは・・・？

## 移植を必要とする血液の病気

血液は酸素や栄養素を全身に運び、不要な老廃物を排出するなどの働きがあり、生きていく上でなくてはならないものです。この血液をうまく造れなくなる病気が、白血病や再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの血液疾患。治療法としては、放射線治療や抗がん剤投与のほか、移植によって健康な造血機能を回復させる「造血幹細胞移植」があります。

## 骨髄バンクドナー

血液は骨の中の「骨髄」で造られます。骨髄の中には血液細胞のもととなる「造血幹細胞」が多く含まれます。健康な造血幹細胞を提供してくれる提供希望者をドナーといいます。

骨髄バンクドナーには、腰の骨から採る「骨髄提供」と、薬を注射して造血幹細胞を血液中に流れ出させ、腕の血管から採

る「末梢血幹細胞提供」の2種類があります。

## 白血球の型の適合がカギ

造血幹細胞移植を行うためには、移植を受ける患者さんと提供するドナーの白血球の型「HLA型」が適合していなければなりません。型が適合する確率は、兄弟姉妹間で4分の1、非血縁者では数百〜数万分の1という確率です。

## 骨髄バンクの役割

血液の病気を治療するために移植が必要な患者さんに、HLA型の適合するドナーを紹介する公的な事業です。日本骨髄バンクに、骨髄・末梢血幹細胞を提供する意思のある人たちをドナー候補として登録してもらい、公平にコーディネートを行います。1991年に設立され、1992年から登録がスタート。公益財団法人日本骨髄バンクが運営主体です。

## 寄付のお願い

骨髄バンクの運営には多額の資金が必要です。公的な補助金もありますが、運営資金の多くはみなさんからの寄付で、重要な財源となっています。安定した運営維持のためにみなさんの寄付をお待ちしています。寄付金は、提供・移植に向けての連絡調整、登録会の開催、普及啓発用のポスターやパンフレット制作に充てられます。

### 銀行振込、電話での募金(クレジットカード)は

 0120・377・465 受付時間:平日 午前9時～午後5時30分

### インターネットからの募金は(クレジットカード、楽天銀行、ポイント募金など)

[http://www.jmdp.or.jp/help\\_us/about/](http://www.jmdp.or.jp/help_us/about/)

または



## データで見る骨髄バンクの今

出典 日本骨髄バンク(2018年12月末現在)

ドナー登録者現在数

**493,627人**

ドナー引退者数

**21,408人**

(2017年度)

患者登録現在数

**2,930人**

※うち国内登録患者現在数は1,347人

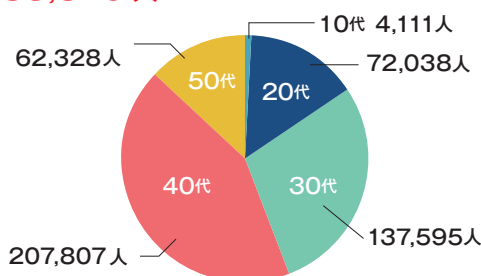
移植実施数

**22,704例**

(1993年からの累計)

ドナー登録者の年代別割合(2018年3月末現在)

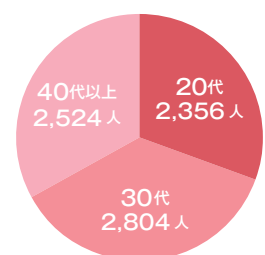
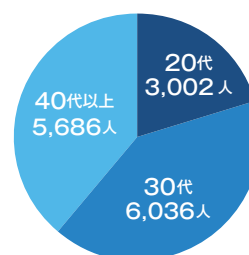
全体 **483,879人**



提供者の年齢・男女別比(2018年9月末現在)

男性 **14,724人**

女性 **7,684人**



# 一人でも多くの患者さんを救うために

ドナー登録者増に向けた取り組みとともに  
骨髄提供しやすい環境の整備にも  
取り組んでいます。

大阪府健康医療部保健医療室 地域保健課

## 大阪府のドナー登録者は増加傾向

骨髄バンク事業は、公益財団法人日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社と都道府県などが協力して運営を行っています。大阪府では府内4カ所の保健所でドナー登録を受け付けているほか、関係機関と連携してさまざまな普及啓発を行っています。

30年12月末時点での府のドナー登録者は2万4110人。府の新規登録者はここ数年増加傾向で、普及啓発の地道な取り組み成果が表れてきているのであればうれしいことです。

## 若者への周知、職場での理解が課題

現在、全国的にドナー登録

者の高齢化が課題となっており、府としても若年層への啓発が重要と考え周知活動に力を入れています。骨髄バンクのドナー登録は18歳から可能であることから、骨髄バンクへの理解とドナー登録の推進を図るため、全府立高校の3年生に対し骨髄バンクのチラシを配付しています。また昨年、NPO法人関西骨髄バンク推進協会、堺市と連携し、大阪府立大学で開催した献血・骨髄バンク事業の勉強会には、多くの参加者がありました。

ドナー登録者数は年々増えているとはいえ、提供希望者と患者さんの白血球の型が適合したにもかかわらず、提供に至らないケースが約4割もあるのが現状です。家族の同意が得られない、介護や育

## 骨髄バンクドナーを支える制度があります

骨髄バンクを介して骨髄などを提供する場合、ドナーも通院や入院で10日前後の日数を要します。その負担が提供を阻む大きなハードルとなっていることから、自治体や企業・団体の中から、ドナーを支援する動きも広がっています。

### 池田市骨髄等移植ドナー支援事業助成金

平成30年4月から、市内居住の骨髄ドナー提供者に、骨髄などの提供1回につき10万円の助成金の交付を開始しました。

対象は、

- 1 骨髄・末梢血幹細胞の提供を行った日に市内に居住し、本市の住民基本台帳に記録されている者
- 2 財団から骨髄等の提供を行ったことを証する書類の交付を受けている者
- 3 市税の滞納がない者

骨髄などの提供日から90日以内に申請書と必要書類を池田市長あてに提出する必要があります。

※本市では、造血幹細胞移植後免疫消失の満20歳未満の方に対して、予防接種再接種をするための助成制度も平成30年4月から導入しています。詳細は市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 健康増進課 ☎ 754・6030

### 企業や団体によるドナー休暇制度

骨髄提供のためにドナーが仕事を休まざるを得ない場合、ドナー自身の有給休暇を使うのではなく、勤務先が必要日数を特別休暇として認める「ドナー休暇制度」を導入する企業・団体があります。その数は2018年12月末現在、全国で347社。導入企業・団体は日本骨髄バンクのホームページで公開されています。

# 「骨髄バンクドナー登録説明員」養成研修会

日時 3月15日(金) 午後1時30分～4時

場所 大阪市保健所 10階「第4会議室」

大阪市阿倍野区旭町1丁目2番7-1000号 あべのメディックスビル10階

申し込み 3月8日(金)までに申込書を郵送かファクスで大阪府地域保健課

疾病対策・援護グループ ☎06・6944・6697 FAX06・6941・6606

問い合わせ NPO法人関西骨髄バンク推進協会 ☎06・6167・5512

※申込書は府ホームページ(<http://www.pref.osaka.lg.jp/>)からダウンロード可。



## 説明員の養成研修会を開催

児など家庭の事情と理由はさまざまですが、最も多いのは「会社を休めない」などの理由によるものが提供を断念する理由の約4分の1を占めます。こうした問題の解決のため、「ドナー休暇制度」の導入を進める企業・団体もありますが、官公庁や大企業が中心で、中小零細企業において、同制度の導入は簡単ではありません。このため、府では独自のパンフレット「骨髄ドナー休暇について」を作成し、事業主のみなさんに骨髄移植についてご理解をいただけるよう引き続き働きかけていくつもりです。

ドナー登録時には、日本骨髄バンクの承認を受けた説明員による丁寧な説明が必要ですが、その説明員の不足も大きな課題の一つと考えています。府では説明員を増やし、登録会の回数を増やすことで、ドナー登録者のさらなる確保をめざし、昨年度から関

係機関と連携し「骨髄バンクドナー登録説明員」養成研修会を開催しており、今後も開催していく予定です。骨髄バンクは、命のつなぎ手となるドナー登録者を集め、血縁関係のないドナーから患者さんへの橋渡しを行っています。みなさんの理解と協力が患者さんの命をつなぎます。移植治療を望む白血病患者などの患者さんを救うには、一人でも多くのドナー登録が必要で、一人でも多くの患者さんに移植の機会が生まれるよう、骨髄バンクへのドナー登録にご協力をお願いします。

## ドナー登録の受付はこちら

池田市と近郊のドナー登録窓口

### 池田保健所

第1・2火曜日 午前9時30分～10時30分

要申し込み

池田市満寿美町3-19

☎ 751・2990

### 阪急グランドビル 25 献血ルーム

月～日曜日 午前10時～午後6時

祝日も受付可(予約不要)

大阪市北区角田町8-47

阪急グランドビル25階

☎ 0120・376・759

### 西梅田献血ルーム

月～日曜日 午前10時～午後6時

祝日も受付可(予約不要)

大阪市北区梅田2-2-2

ヒルトンプラザウエストオフィスタワー 10 階

☎ 0120・316・759

上記の他、各地で不定期にドナー登録会が開催されています。開催予定は日本骨髄バンクのホームページなどで確認できます。

## 骨髄バンクに関する詳しい情報はこちらを参照

### 日本骨髄バンク

<https://www.jmdp.or.jp/>

### 日本赤十字社

造血幹細胞移植情報サービス

<http://www.bmdc.jrc.or.jp/>

## ドナー登録するには

### ドナー登録できる人

- 満 18 歳から 54 歳までの健康な男女
- 過去に輸血を受けたことがない
- 体重が男性 45 キロ以上、女性 40 キロ以上  
※健康状態や病歴などにより登録できない場合があります。

### ドナー登録の流れ

- 1 献血ルームや一部の献血バス、本市では保健所で配付しているドナー登録のしおり「チャンス」をよく読み、骨髄・末梢血幹細胞の提供について内容を理解します  
※しおりは日本骨髄バンクのホームページでもご覧になれます。
- 2 骨髄バンクドナー登録申込書に記入・署名します  
※申込書は日本骨髄バンクのホームページからもダウンロード可。
- 3 左記窓口で登録手続き(15分程度)
- 4 採血(腕の静脈から約2mlを採り、HLA型を調べます)
- 5 後日、登録確認書が届き、ドナー登録完了です  
※登録後、患者さんとのHLA型適合検索を定期的に行います。

# 支えられた命、支えた命

命のバトンによって支えられた元患者さん、支えたドナー提供経験者さん、  
家族の発病を機に説明員として活動を始めた方。

当事者のみなさんそれぞれの思いを伺いました。

## 提供ドナーさんのことを思うと 今でも心が震えます

移植を受けた元患者さん  
NPO 法人関西骨髄バンク推進協会理事  
**浅野 祐子さん**



3年間毎日ランニングを続けていたのに、だんだん走れなくなり、おかしいと思って血液検査をしたところ健康な人の半分以下の血液数値に。骨髄異形成症候群と診断されました。当時は薬はなく完治には移植しかないと言われました。10年前のドナー登録者は30万人で、型が一致したのは4人だけ。提供が決まるまではひたすら祈る日々でした。移植はいただいた骨髄液を点滴で入れるのですが、その後、激しい免疫反応で高熱、かゆみ、全身の皮膚がただれ、入院は9カ月及びました。数年はいろいろな症状が出て不安でしたが、もともと体力に救われ、日常生活を取り戻しました。あの時、きつとあったであろうさまざまな問題を乗り越え、見ず知らずの私に提供してくださったドナーさんのことを思うと、今でも心が震えます。会って、私は元気ですと伝えたい。どうかお幸せでお元気でありますように。

## この恩を社会にお返ししたい！ 強い感謝の気持ちが原動力に

移植を受けた元患者さん  
骨髄バンクや若い患者さんの支援に携わる  
**後藤 千英さん**



バスケットボールに明け暮れていた17歳。ある日、階段が上れなくなり、血液の病気だと告げられました。貧血でだるい、息切れがひどい、出血すると血が止まらないなどの症状に苦しみながら、長年にわたり定期的な輸血で命をつないできましたが、2012年、完治を求めて骨髄移植を受けました。生き地獄のような術後の免疫反応をくぐり抜けた後、生まれ変わったように体が楽になってからは「この恩を社会にどうお返ししたらいいのか」という強い思いが湧いてきて、骨髄バンクや輸血の大切さを伝える活動、若い世代の患者さんを支える活動に奔走しています。ドナーさんとは移植後に手紙を交換。いただいた手紙に書かれていた、私のこれからの人生へのエールの言葉は何度読み返しても心に響き、深い感謝の思いとともにずっと大切にしています。

## ごく普通の人間でも 誰かの命を救うことができます

ドナーとして2回の提供を経験  
骨髄バンクの説明員としても活動する  
**平山 直人さん**



体が悪いのに誰かの役に立ちたいという方を追ったドキュメンタリーに感銘を受け、自分も何かなりたいとドナーに登録。登録したからには提供したかったので、適通知が来たときは即決断しました。看護師の姉は意外にもすぐには納得してくれず、母親も見ず知らずの他人のために手術を受けることに抵抗があったようですが、勤務先にはドナー休暇制度も上司の理解もあり助かりました。骨髄採取後、腰のあたりに重苦しさを感じましたが、全身麻酔なので痛みはなく、翌日には病棟内を歩いています。腰に負担がかかる仕事ですが、退院後の経過も良好でした。骨髄バンクに対する正しい知識を持ち、ごく普通の人間でも誰かの命を救うことができることを、多くの人に知ってほしいと思っています。



NPO法人 関西骨髄バンク推進協会所属  
骨髄バンク説明員  
池田市公益活動促進協議会 届出団体  
「届け!関西からいのちのバトン!」代表

## 赤木 晴香さん

NPO 法人関西骨髄バンク推進協会  
<http://kansaikyokai.or.jp/>

# まずは知ってもらおうことから。 若い人たちにこそ伝えたい 骨髄バンクと献血の大切さ。

知る、理解する、  
自分ごととして考える

大切な家族が突然、白血病になつたことがきっかけで、骨髄バンクや献血の必要性を学びました。そして、身近な人の中にも骨髄バンクのことを知らない人が非常に多く、知らないがゆえの誤解もあること、同世代でも献血の経験がない人が多いことに気づきました。多くの人にきちんとした情報を知ってもらいたい。そんな思いから、骨髄バンクの説明員になり活動を始めました。

まずは知ること、理解すること、そして自分ごととして考えることが第一歩。健康に気づかい規則正しく暮らしていても、突然病気になることがあります。家族に輸血が必要になつたり、骨髄バンクのお世話になることがあるかもしれません。小児がんの多くは白血病のお子さんです。今や2人に1人はなるといわれるがん治療にも、多くの輸血用血液が使われます。決して他人事ではないのです。そのことを道徳や保健の授業など教育の現場で、幼いうちから伝えていく必要があるとも感じています。

### 献血イベントでの 周知活動も

説明員として献血ルームや献血バスに赴き、献血に来られた人に骨髄バンクの話をし、あわせて骨髄バンク登録もできることを説明するのですが、何度も献血をしている人でも骨髄バンクについては「知らなかった」という人が多くいらっしゃいます。

池田市献血推進協議会(事務局池田市社会福祉協議会)のご協力で、平成29年夏から献血とあわせて骨髄バンクのドナー登

録会を実施していただけるようになり、池田ライオンズクラブが協賛する献血活動にご一緒させていただいています。厚生労働省の「はたちの献血キャンペーン」にからめて、池田市の成人式で骨髄バンクのチラシを配布し、若い方への告知にも取り組んでいます。

若年層のドナー登録の減少は若者の献血離れと連動しています。献血に来られる方の多くが50歳以上。一方で提供ドナーに関しては、若い方のほうが健康な方が多く、ドナーには適しています。若い人たちに、献血と骨髄バンクの両方を身近に感じてもらふことで、善意の輪が広がっていくばと思っています。

また、骨髄バンクの説明員はバンクが設立された30年近く前から関わっている方が多く、高齢化が否めません。学生さんや献血協力企業・団体、地域のボランティアさんなどの中から骨髄バンクの説明員をしてくださる若い方も増えていけば良いと思います。

### 全ての患者さんに 生きるチャンスをお

説明員としての活動は、まさ

に毎日が「命のつながり」「命のバトン」を感じる日々です。「父が血液の病気になり、輸血により延命ができて感謝しています」「提供を受けて、今、こうして生きています」などの声を聞きます。物質的な支援やお金の援助も大切ですが、見知らぬ誰かのために提供する骨髄バンクや献血も、本当に尊いものだと感じています。

たくさんの方に命をつなぐ「献血」と、命を救う「骨髄バンクドナー登録」にどうか協力ください。骨髄バンクの登録のしおりは「チャンス」という名前です。全ての患者さんに生きる「チャンス」が届くようにと願っています。



市役所1階ロビーで骨髄バンクの資料を設置  
(3月1日(金)正午～15日(金)正午)

◀今月号の「市民記者が行く!」でも骨髄バンクドナー登録と献血について紹介しています。詳細は31ページをご覧ください。